



薩摩の古道 歩行マップ 薩摩街道 出水筋

薩摩藩英国留学生渡欧の地 (いちき串木野市羽島)

文久三年(一八六三年)薩英戦争で欧米の技術文明の進歩を知った薩摩藩は留学生の派遣を決定した。一行十五名は、慶応元年(一八六五年)引率の新納久・町田久成・指導者の松本弘安・五代友厚とともに、串木野市の羽島港から英国



3 並松
4 酔之尾。街道は畑地となり消滅したので迂回します。



5 針原バス停



7 戸切川橋



8 薩摩山下バス停



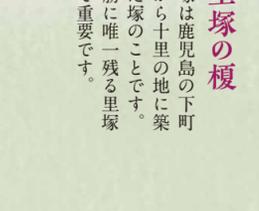
9 薩摩山橋は写真中央付近。



10 上名の三叉路



12



13 旭小の前。街道は金山公民館と十里塚を結ぶライン上にありましたが鉄道敷設により消滅しています。



15 国道沿いに残る街道



16 芹ヶ野



17 芹ヶ野



14 椿平橋東側の様子



11 堺橋と道標。街道は民家の脇に人ひとりと通れる小径として残っています。



17 堺橋と道標。街道は民家の脇に人ひとりと通れる小径として残っています。



1 申木野養護学校入口



1 申木野養護学校入口



2 薩摩焼発祥の地



2 薩摩焼発祥の地



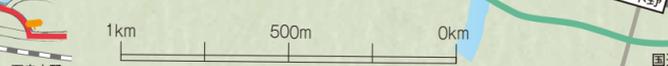
6 旧郵便所跡



6 旧郵便所跡



6 旧郵便所跡



6 旧郵便所跡



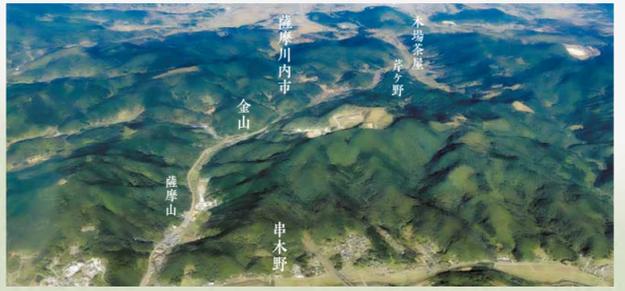
11 堺橋と道標。街道は民家の脇に人ひとりと通れる小径として残っています。



11 堺橋と道標。街道は民家の脇に人ひとりと通れる小径として残っています。



11 堺橋と道標。街道は民家の脇に人ひとりと通れる小径として残っています。



金山の歴史

江戸時代の初期、宮之城郷佐志村(現・さつま町佐志)の川で金鉱石が発見されました。薩摩藩は宮之城領主の島津久通に金鉱脈の探索を指示したのです。寛永十七(一六四〇)年、長野郷長野村(現・さつま町永野)の河原で金鉱石を捜しあてた。しかし金鉱脈は実際には横川郷山ヶ野(現霧島市横川町山ヶ野)であることが判明して山ヶ野金山と呼ばれるようになりました。但し、幕府に報告した後で正式には長野金山の呼称を使用したので、さらに万治三(一六六〇)年、串木野の芹ヶ野金山(芹場金山)が発見され長野金山の枝山としました。(芹場川の上流に小字芹場があり、この付近一帯が金山です。流域の金山を含んでいいます。)

串木野城

初代城主は、串木野三郎平忠道。薩摩郡本地頭、平忠直の子で、五代忠秋は南北朝合戦で南朝方に味方して、島津家五代貞久と戦い、興国三(一三四二)年頃城は陥り、忠秋は父祖の地知覧へ逃れました。それ以降当地は島津の支配となり、文明六(一四七四)年川上忠塞が、串木野城主に任じられ、栄久・忠克二代に及び、十五代島津貴久は、山田藏人を串木野・市来の地頭に任じ、島津家十七代義弘は、弟家久を串木野隈之城の地頭に任じました。家久は10年間地頭職にあつたが、日向佐土原の領主として当地を去った。また、この時、嫡男として島津豊久もここで産声をあげたとされています。その後、文久三(一八六三)年まで約30名の歴代地頭名の記録も残っています。



企画・発行 鹿児島地域振興局 協力 薩摩街道保存会
〒892-8520 鹿児島市小川町3番56号 TEL099-805-7206 FAX099-805-7400
〒895-0076 鹿児島県薩摩川内市大小路町73-28 TEL0996-25-2477(会長:丸目 直樹)



七夕踊

国指定重要無形民俗文化財



七夕踊の起源は島津義弘の文禄・慶長の役での活躍を称えて踊りが奉納されたことが始まりと伝えられています。途絶えていた時期もありましたが、天和四（一六八四）年大里開田を祝って踊りが奉納され、以後、今日まで受け継がれてきた伝統行事です。花笠や美しい衣装の太鼓踊りが中心ですが、虎・牛・鶴・鹿などの張り子のユーマラスな動きは見る人を笑顔でいっぱいにしてしまいます。

国指定天然記念物



湯田稲荷神社裏山の、椎の木の根元に10月から11月に発生する顕花植物。高さが3〜4cmでその姿が「奴（やつこ）」の歩く姿に似ているので、この名が付けたとされています。



1 県道戸崎湯之元停車場線(湯田)
(中原への山道は草敷のため歩行は困難です。)



4 大里のT字路



大里の山道
人里から離れるにつれ草敷が深くなり歩行は困難です。山菜採りのシーズンには、草刈りが行われるので通れることもあるようです。



7 中原の道標



8 中原の治水溝付近



9 堀西口



10 崎野交差点



11 街道脇の石倉



12 湊町一丁目



薩摩渡瀬橋
大里川にある橋で、かつて木橋で中洲があり橋が二つ架けられていました。白い砂浜に松林の緑が映えて目を見張る景勝地であったと伝えられています。



18 お仮屋跡

市来の地頭館は現在の役場敷地内にありました。参勤交代の折、時には藩主に立ち寄る事もあったようです。四方に柵をめぐらせ、茅葺の母屋には藩主専用の間も造られていました。



ジグザグ状に折れ曲がる街道は遠くまで見通せない形状となっています。薩摩にとって、この地は防衛上の要衝として機能していたのではと推測されています。沿線には歴史を感じさせる焼耐蔵元やお仮屋跡などがあります。

昭和初期の市来湊



19 川口番所跡からみた風景

津口番所は主要な港に設けられ船の出入を監視していました。市来では八房川の川口に番所が置かれ通称「川口番所」と呼んでいました。市来湊は江戸・大阪方面へ物資を輸送する港として、また宿駅、浦町として賑わったところでした。



17 八坂神社前



16 八坂神社



15 市来交差点



14 市来交差点



13 井戸跡(右角に道路改修記念碑)



15 御仮屋通用門
江戸時代役場がお仮屋であり、お仮屋には藩主の使う本門と家来の使う通用門がありました。

- 1 弁天石像
- 2 八坂神社
- 3 えびす石像
- 4 回船問屋跡
- 5 回船問屋跡
- 6 御仮屋跡
- 7 町門跡
- 8 川口番所跡
- 9 菅原神社